

# 大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区北白川追分町 京都大学教理解析研究所図書室 (提臺範氣付)

TEL 075-753-7223

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 目 | 1. 大図研大学「英米法入門」を受講して (松原修)       |
|   | 2. 京都橘女子大図書館でミニ源氏展 (T)           |
| 次 | 3. 「京都の大学図書館」出版にあたりカンパの訴え (委員会)  |
|   | 4. 新春例会に47名参加      5. 第3回支部委員会報告 |

## 大図研大学「英米法入門」を受講して

大図研大学「英米法入門」は、立命館大学国際関係学部教授、堀田 牧太郎氏を講師に迎え、11月9日(土)、10日(日)の2日間、立命館大学の末川会館において開催されました。

その内容を以下において簡単に紹介したいと思います。

まず、第1日目は法令や判例の引用方法と法令についての説明を中心に講義が行われました。

法令や判例には引用するルールがあり、「A Uniform System of Citation」に基づいて「比較法研究」と「COLUMBIA LAW REVIEW」を実際に用いながら、略し方の方法も含めて説明がありました。

その後、具体的な実物に手を触れながら、アメリカの代表的な法律集である「USC」、 「USCA」、 「USCS」等やイギリスの「Halsbury's Statutes」、 「HMSO」等の解説がありました。さらに、その他にどのような法律集や命令集があるのかをパンフレット類も含めて網羅的に説明して頂きました。

第2日目は、判例中心の講義が行われ、裁判制度の紹介が簡単に行われ、その後、アメリカの代表的な判例集である「U. S. J.」、 「S. Ct. J.」、 「Fed. J.」、 「F. Supp. J.」やイギリスの「LAW REPORTS」等を第1日目と同様に実物に手を触れながら講義が行われました。もちろん、アメリカの州の判例集についての説明もありました。

講義を受けた感想は、小人数ということもあって、実物を実際に触れながら講義がすすめられ大変わかりやすかったし、『INDEX TO LEGAL PERIODICALS』を使って、1人1人に問題を与えて、具体的な判例を検索する等の形式もとられ、適度な緊張感もあり、講義をうけられた皆様からも大変好評でありました。

また、2日目に先生の著書である『アメリカ法事典：予備版』にサインをして、受講者に配るというサービスもありました。

英米法というものは、我々図書館員にとってあまり馴染みのない分野であり、こういう機会がないと勉強できないものであります。今後も大図研大学は、図書館員の在り方ともかかわって、この様な図書館員の弱い分野に注目して、集中的に展開して行く必要があると思います。そして、自らと利用者サービスの向上のためにも、是非がんばりましょう！

立命館大学図書館 松原 修

## 京都橘女子大図書館でミニ源氏展

見て、聞いて、触れる —— 「香」からパソコン通信まで

少し前のことですが、昨年11月1日から9日まで京都橘女子大学の図書館で『アレンジ源氏』と題してミニ源氏展が行なわれ、京都新聞にも写真入りで報道されました。

展示は、①源氏クラシック ②ポピュラー源氏 ③イメージ源氏 ④源氏アート ⑤アクセス源氏の五コーナーを設置。図書資料だけでなく、源氏にかかわる美術工芸からパソコン通信まで幅広く紹介していました。

源氏クラシックはいわゆる普通の源氏展。注目すべきは他の四つのコーナー。ポピュラー源氏では各種現代語訳は言うに及ばず沢山の漫画源氏も展示。ビデオやカセットテープもいろいろ取り揃え一日中ずっと上映していました。

イメージ源氏のコーナーでは京都の一番の老舗が香の原料はもちろん、各種道具も出品。練り香も大図研の会員によって毎日炊かれ、会場は良い香りに包まれていました。また鈴虫やおそろぎの鳴き声もテープでながし、源氏絵の着物も展示。王朝の雰囲気優雅にかもしだしていました。

源氏アートのコーナーでは源氏絵の陶器が、全国唯一それを専門にしている京都の窯元から大変高価な壺や絵皿までいろいろと出品。絵巻物の模写もあれば、江戸時代の狩野派の絵、現代作家の創作もあり、大変楽しめました。

アクセス源氏のコーナーはパソコン通信。NIFTY-SERVEの文学フォーラム第6会議室「源氏の部屋」に接続、源氏ファンの電子会議がどんなものか分かるようになっていました。また別に接続の状況を大きいパネルにして展示していました。

お金をかけずに、しかも現代のナウい感覚で企画されたこのミニ源氏展は、なにも知らない素人にはうってつけで手軽に楽しめるものでした。また、この展示を見て、こうした展示は、事前の研究と見に来る人の実態分析、それに基づく鋭い発想が重要だということを実感しました。(T)

## 近畿五支部新春合同例会 四七名参加！

1月18日(土)午後3時から開催された新春合同例会は、京都20名、大阪17名、兵庫7名、奈良3名、合計47名の参加で大盛況でした。井ヶ田教授の講演「三くだり半」も好評でした。また、その後の懇親会も30名をこえる参加でなんとなく全国研究集会などの懇親会みたいでした。詳しくは次号を御覧ください。(T)

## 『京都の大学図書館』出版にあたり

### 1 口2千円のカンパを訴えます

— カンパして頂いた方には1冊進呈 —

京都支部創立10周年記念行事として3年前に企画され準備が続けられてきた相互利用の為のハンドブック『京都の大学図書館』がやっと出版される運びとなりました。この本は、1991年3月現在の最も新しいデータに基づくこと、各大学図書館の蔵書構成や文庫の特徴、ガイダンスの仕方にも言及するなど従来の類書を一步越えたものになっており、京都の大学図書館に関する限り必携のハンドブックとなることは疑いがありません。

皆様のご協力を得て昨年3月再度アンケートをやりなおし、夏から秋にかけて松原(立命)、大館(学園大)、村上(龍谷)の3氏によって編集及びワープロ打ち込み作業が精力的に行なわれました。そして最後の調整作業がこの年末年始に行われ、約290頁となりました。2月中には200部印刷される予定です。

印刷製本費は35万円。昨年暮れから今年はじめにかけて一部有志の方々をお願いして京都支部委員会にお金を融資して頂き、支払いのための資金繰りはなんとかメドをつけました。しかし、アンケートに協力して頂いた図書館には御礼としてこの本を寄贈することになっている為あまり大学図書館などに購入してもらえない見通しがありません。

このため今年度京都支部予算では可能な限り経費の節減につとめ、さらに、これまで京都支部が長年にわたって孜々営々として蓄積してきた「支部活動維持基金」10万円を全部取り崩しました。しかしそれでもなおかつ10万円余が不足します。

大図研会員のみなさん！『京都の大学図書館』出版の意義と関係諸機関及び関係者の労苦にご理解頂き、1口でも多くのカンパに応募して下さいよう心から訴えます。カンパして下さい方には『京都の大学図書館』を進呈します。ぜひ座右に置いてご活用下さい。

1992年1月7日

大学図書館問題研究会京都支部委員会

### 第3回支部委員会記録

日時：1992年1月7日（火） 場所：京都大学教育学部

出席：篠原 堤 竹本 竹村 大館 小林 橋本 松原 西野

1. 報告 (1) 情勢 (2) 近畿5支部合同例会について (3) 会計監査一残る1名は船越さんに決定 (4) 班会および大学の状況について
2. 議題 (1) 現場実践と「政策骨子」について—「政策骨子」をどのように読み、活用するのか。現場点検、実践の報告、交流、研究を次の支部総会で行うこと等を議論した。(2) 「京都の大学図書館」出版資金カンパについて—1口2千円の 資金カンパを集め、応募者には「京都の大学図書館」を進呈する。目標は60 口以上とする。理由は a. 出版する以上は出来るだけ多く普及した方がよい b. 一口の単価が少ない方が集めやすい c. 借入れの場合、返済がかなり難しい (3) 支部報告について